

戦争を伝える



婦人会の戦時訓練（象潟小の校庭・昭和18年頃）

9月3日(土)14:50～
小滝・金峰神社
雨天決行

《小滝集落内》

- 14:00～ 小路わたり（奈曾会館～金峰神社）
《神社境内 郷土文化保存伝習館》
- 14:50～ 幕開き
15:00～ 御宝頭・小滝のチョウクライ口舞
15:50～ あいさつ
16:00～ 金浦神樂
16:25～ 本海獅子舞番楽（由利本荘市）
16:50～ 蕨岡延年舞（遊佐町）
17:15～ 冬師番楽
17:40～ 釜ヶ台番楽
18:05～ 伊勢居地番楽
18:30～ 大森歌舞伎
18:55～ 鳥海山日立舞
19:20～ 鳥海山小滝番楽

日程

第2回 鳥海山伝承芸能祭

にかほ市誕生5周年と「鳥海山」が国の史跡に指定されたことを記念し、昨年から開催している鳥海山伝承芸能祭。

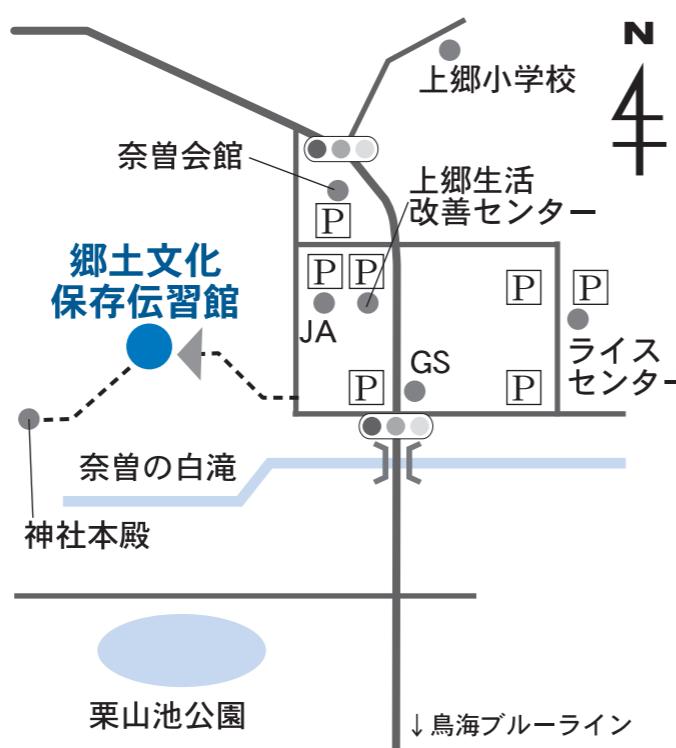
国的重要無形民俗文化財・小滝のチョウクライ口舞をはじめ、金浦神樂や大森歌舞伎、市内の番楽などが一堂に会するほか、由利本荘市から本海獅子舞番楽、

山形県遊佐町から蕨岡延年舞が出演します。鳥海山麓で古くから伝承されてきた郷土芸能を、国の史跡に指定された神社境内の莊厳な雰囲気とともにをお楽しみください。

問合先 文化財保護課
☎ 43・2005



会場案内図



金政さん（大町）

昭和20年の終戦を私は朝鮮半島で迎えました。当時20歳、陸軍に所属。飛行兵に操縦を教育する任務に就いていました。元々は軍属でなく、民間の学校で飛行機の操縦を覚え、そこに召集令状・赤紙が届いたのです。戦争は末期に近く、私が教育した少年たちは戦地に行く前に終戦したと思います。私も戦場の経験はありません。

若かつたせいか、戦争が始まつた時にも、赤紙がきた時にも、深く考えることがなかったようになります。純真というか「お国のために総てのものを犠牲にする」意識が国民に徹底的に叩き込まれていました。予科練、少年飛行兵などは男の子たちの憧れでもありました。家族が戦死しても、悲しみを表すことは恥かしいこととされていました。戦死者の家は英靈の家として、周囲の尊敬を受けたのです。私の兄も南方で戦死しました。

戦時中、軍の中では食料や生活物資が足りなかつた記憶はなく、戦後、帰国してから農家にコメや野菜を求めて、母の着物などと交換したりしました。國

夫がシベリアに出征したのは、娘が2歳になるかならないかの時で、終戦間際だつたと思います。幼い子どもを抱え、働き手がいなくなり、どうやって暮らしていくべきのかと、途方に迷いました。何年も前のことです、記憶も薄れていてますが、戦時中から戦後にかけて、娘と2人で生きるために働いてきました。農家の手伝い、山の草刈り。冬はJAから炭やケラ（ワラで作った雨具）を背負つて下りて、院内でコメや生活品と交換。（当時、

佐藤シゲヨさん（横根）

夫はもう何十年、夢にも出でません。そうしたら、ひ孫の面差しがそつくりになつてきて（笑）。家族6人で暮らす今、幸せだと感じられます。

中が混乱していた時代でした。その後、考え方がスパッと180度変わりました。国家主義から個人第一主義とでもいうのでしょうか。自分の意思で行動できない社会から、自由な社会へ：

自由に生きられることは素晴らしいことです。一方で、皆で力を合わせて、全体のことに責任を持っていたあの時代が、今は、少し懐かしく思われます。

夫は終戦後も帰ってきませんでした。戦死の報が届かないまま、終戦から10年以上過ぎて葬儀を行いました。それまで戦死として扱われず、村長さんが口添えてくれて、手続きをしたのです。出征する時には、家に髪の毛とツメを残していました。それを遺骨代わりにした葬儀でした。

冬師から小国へ、それから昭和40年頃になつて横根へ移つてきました。昔、苦労した分、身体は丈夫です。娘が結婚し、孫・ひ孫も生まれました。苦労したとも思うし、周りに支えられて、縁に恵まれた人生だつたとも思っています。

冬師・釜ヶ台は院内村（冬師と違つて、1日かかりでした。必死でした。社会全体にモノがない時代で、山菜などの野の植物から、大根や南瓜の葉っぱなど、今ではあまり口にしないようなものでも、食べなければ生きていけませんでした。